

技師長総括 さいたま赤十字病院 尾形智幸

当院は昭和 9 年 7 月日本赤十字社埼玉支部療院 77 床で開院し、昭和 18 年与野赤十字病院、昭和 22 年大宮赤十字病院、平成 15 年さいたま赤十字病院と改称された。

私は昭和 55 年非常勤からお世話になり当時は診療放射線技師 7 名の組織であった。2 月に本館の移転があり、この年の 7 月から埼玉県救命救急センターが開始された。そして、平成 28 年 1 月 1 日にさいたま新都心に新築移転となった。私は平成 24 年から技師長に就任し、入職以来同病院移転を 2 度経験している。技師数も入職当時 7 名から平成 14 年には 24 名、平成 26 年は 30 名となりさらに移転と夜勤体制導入に伴い現在 41 名となっている。

業務としては

平成 14 年 オーダリングシステム/放射線部門システム運用開始

平成 18 年 一般撮影のデジタル化に伴い画像サーバー設置

平成 21 年 放射線科二人体制当直開始

FPDMMG 装置/乳腺生検装置の導入

平成 22 年 フィルムレス (PACS) 運用開始

平成 25 年 口腔外科開設に伴いデジタルパノラマ装置導入

FPD 搭載一体型ポータブル撮影装置導入 (このタイプでは世界初号機・2 号機となる)

平成 28 年 さいたま新都心に新築移転

移転に伴い、サイバーナイフ・PETCT・3 TMRI が新たに導入

日本赤十字社診療放射線技師会でも東部ブロック理事、乳房画像専門部代表、日本赤十字社診療放射線技師会理事、医療安全部会員、大型機器共同購入アドバイザーを担当させて頂きました。

特に思い深いのが、東日本大震災の遺体検案前被ばく測定業務では、埼玉県診療放射線技師会からの要請で現地に赴いたにもかかわらず、病院が、さいたま赤十字災害派遣として扱ってくれたことに深く感謝したい。

総括として、ハード面ではそれなりの導入成果を上げられたが、放射線科組織としては旧態依然とした体制を改善することができなかつたことが悔やまれる。



初代病院



前病院本館



現在病院